

# 米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

## ●米国：2022年7月12日公表 USDA Crop Production

### 6月農業概況（抜粋）

6月の平均気温は、米国の大部分の地域で平年並みを上回った。テキサス州の大部分の地域並びにカリフォルニア州、大平原地域、米国南東部及び米国南西部の一部の地域では、6月の平均気温が平年並みを1.65℃以上上回った。これとは対照的に、米国北東部、太平洋沿岸北西部及びロッキー山地北部の大部分の地域では、6月の平均気温が平年並みをやや下回った。フロリダ州南部、五大湖地域、大西洋沿岸中部の一部の地域でも、6月の平均気温が平年並みをやや下回った。米国南西部の大部分の地域では、6月は平年並みに比べて乾燥した状態であった。その一方で、アパラチア山地、大西洋沿岸中部、米国南西部、ミシシッピー渓谷、太平洋沿岸北西部、大平原地域、ロッキー山地北部及び米国南西部では、6月の降水量が平年並みの2倍に達した地域があった。

表1 米国の銘柄別作付面積・収穫面積

| 作物名      | 作付面積 (ha) |         | 収穫面積 (ha) |         | 単収 (t/ha) |      | 生産量 (t)   |      |
|----------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|------|-----------|------|
|          | 2021      | 2022    | 2021      | 2022    | 2021      | 2022 | 2021      | 2022 |
| ヒヨコマメ    | 149,130   | 141,240 | 142,050   | 137,720 | 0.91      |      | 129,770   |      |
| 乾燥インゲンマメ | 564,140   | 518,410 | 540,500   | 499,510 | 1.91      |      | 1,030,610 |      |
| 乾燥エンドウ   | 395,380   | 411,970 | 337,510   | 392,140 | 1.15      |      | 387,780   |      |
| レンズマメ    | 286,520   | 262,240 | 222,170   | 245,240 | 0.68      |      | 150,910   |      |

[データは入手可能な最新の推定値であり、最新の報告書または前回の報告書の推定データに基づいている。現行年度の推定は、2022作物年度全期間に関するものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。]  
作物生産量：2022年7月12日公表。米国農務省(USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局(NASS)。  
作付面積、収穫面積、単収及び生産量は、メートル法の単位(トンまたはヘクタール)で表示しており、2021年度及び2022年度について米国が公表したものである。

## ●カナダ：2022年6月20日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、カナダ農業食料省の2021/22作物年度及び2022/23作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。カナダ産の大部分の作物について、作物年度は8月1日に始まり7月31日に終わる。ただし、トウモロコシ及びダイズについては、作物年度が9月1日に始まり8月31日に終わる。ロシア

のウクライナ侵攻による黒海沿岸地域の農業生産及び国際貿易状況の混乱を背景として、需要が強い反面、供給が不足しており、世界の穀物市場の先行きの見通しは引き続き不確実である。

### 乾燥エンドウ（抜粋）

2022/23作物年度のカナダの乾燥エンドウ作付面積は、前作物年度において過去最高記録の収益性が得られたにもかかわらず、2021/22作物年度に比べて7%減少して144万haとなる見込みである。州別にみると、サスカチュワン州が乾燥エンドウ作付面積の52%を占めており、アルバータ州が40%を占め、残りの作付面積はカナダ各地に散在している。

生産量は、単収が向上したことから大幅に増加して350万tとなる見込みである。しかし、生産量の増加が推定されていることから、供給量は31%増加する見込みである。供給量が増加することから、輸出量は増加する見込みであり、中国及びバングラデシュがカナダ産乾燥エンドウ市場の上位を占めている。期末在庫量は増加して30万tとなる見込みであるが、これは長期的な平均値を下回っている。平均価格は、2021/22作物年度に比べて低下する見込みであるが、これは国内供給量及び世界的な供給量が増加する見込みであることによる。

### レンズマメ（抜粋）

2022/23作物年度のカナダのレンズマメ作付面積は、2021/22作物年度にレンズマメ生産者価格が大幅に上昇したことから、前作物年度に比べて少し増加して180万haとなる見込みである。サスカチュワン州がレンズマメ作付面積の89%を占め、残りをアルバータ州及びマニトバ州が占める見込みである。

生産量は、AAFCの予測によれば、59%増加して255万tとなる見込みである。生産量の増加の一部が、期初在庫量が少なかったことによって相殺されたものの、供給量は増加して290万tとなる見込みである。輸出量は、2021/22作物年度に比べて増加して210万tとなる見込みである。期末在庫量は、増加して35万tとなる見込みである。カナダ産レンズマメの等級別の分布が平年並みであるとの予測のなかで世界的に供給量が増加しており、最高級の等級の価格が低下していることから、平均価格は、2021/22作物年度に比べて低下する見込みである。

## 乾燥インゲンマメ（抜粋）

2022/23作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ作付面積は、主として北米全体の干ばつの影響で単収が低下したことにより、2021/22作物年度に比べて23%減少する見込みである。州別にみると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメ作付面積の33%を占め、マニトバ州が38%、アルバータ州が21%、残りをサスカチュワン州、ケベック州及び沿海諸州が占める見込みである。

生産量は、減少して33万tとなる見込みである。期初在庫量が多かったことから、供給量の減少はわずかなものに留まる見込みである。供給量が前作物年度と同様であるにもかかわらず、輸出量は増加する見込みである。期末在庫量は、減少する見込みである。ホワイトピー・ビーン及びピントー・ビーンについて、北米での供給量が前作物年度と同様の見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメの平均価格はわずかに低下する見込みである。

## ヒヨコマメ（抜粋）

2022/23作物年度の作付面積は、2021/22作物年度に比べて減少する見込みであるが、これは前作物年度に単収が低かったことによるものである。州別にみると、サスカチュワン州がカナダ全体のヒヨコマメ作付面積の大部分を占めており、残りをアルバータ州が占めている。

表2 カナダの豆類の作付面積・収穫面積・単収その他

|                  | 乾燥エンドウ [a] |              |              | レンズマメ [a] |              |              | 乾燥インゲンマメ [a] |              |              | ヒヨコマメ [a] |              |              |
|------------------|------------|--------------|--------------|-----------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------|--------------|--------------|
|                  | 2020-2021  | 2021-2022[f] | 2022-2023[f] | 2020-2021 | 2021-2022[f] | 2022-2023[f] | 2020-2021    | 2021-2022[f] | 2022-2023[f] | 2020-2021 | 2021-2022[f] | 2022-2023[f] |
| 作付面積 (1,000ha)   | 1,722      | 1,546        | 1,437        | 1,713     | 1,742        | 1,815        | 185          | 177          | 137          | 121       | 75           | 71           |
| 収穫面積 (1,000ha)   | 1,685      | 1,491        | 1,410        | 1,705     | 1,716        | 1,790        | 183          | 171          | 133          | 120       | 74           | 70           |
| 単収 (t/ha)        | 2.73       | 1.51         | 2.48         | 1.68      | 0.94         | 1.42         | 2.68         | 2.26         | 2.45         | 1.79      | 1.04         | 1.57         |
| 生産量 (1,000t)     | 4,594      | 2,258        | 3,500        | 2,868     | 1,606        | 2,550        | 490          | 386          | 325          | 214       | 76           | 110          |
| 輸入量 (1,000t) [b] | 81         | 30           | 80           | 110       | 50           | 75           | 63           | 75           | 75           | 41        | 25           | 45           |
| 総供給量 (1,000t)    | 4,909      | 2,846        | 3,730        | 3,187     | 2,063        | 2,875        | 578          | 571          | 560          | 506       | 376          | 305          |
| 輸出量 (b)          | 3,582      | 2,100        | 2,700        | 2,326     | 1,500        | 2,100        | 396          | 340          | 360          | 159       | 160          | 120          |
| 国内総利用量 (c)       | 768        | 596          | 730          | 454       | 313          | 425          | 72           | 71           | 70           | 71        | 66           | 65           |
| 期末在庫量 (1,000t)   | 559        | 150          | 300          | 407       | 250          | 350          | 110          | 160          | 130          | 275       | 150          | 120          |
| 在庫量/利用量 (%)      | 13%        | 6%           | 9%           | 15%       | 14%          | 14%          | 24%          | 39%          | 30%          | 119%      | 66%          | 65%          |
| 平均価格 (\$/t) (d)  | 340        | 600          | 480          | 645       | 1000         | 835          | 930          | 1200         | 1180         | 640       | 960          | 960          |

[a] 作物年度 (8月から7月)。

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食料及び加工原料用+飼料用副産物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

[f] : カナダ農業食料省による推定。ただし、2020/21年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量については、カナダ統計局による。

資料：カナダ統計局 (STC) 及びカナダ農業食料省 (AAFC)。

生産量は、単収が向上したことから、大幅に増加して11万tとなる見込みである。生産量の増加が、期初在庫量が少なかったことにより相殺されることから、供給量は減少する見込みである。輸出量は減少する見込みであるが、供給量が減少する見込みであることから、期末在庫量は減少する見込みである。2022/23作物年度の等級別の分布が平年並みであると予測されており、世界的な供給状況が前作物年度と同様の見込みであることから、平均価格は変わらない見込みである。

### ● オーストラリア：2022年6月7日公表 ABARES Australian crop report

#### 概観（抜粋）

2022/23冬作年度の始めの生育条件は、大部分の生産地域で非常に良好であった。オーストラリア東部の諸州及び西オーストラリア州の大部分の生産地域で2月から4月までの総降水量が平年並みを大幅に上回り、冬作物の作付けに十分なだけの土壌水分含有割合が得られた。秋季の始めの南オーストラリア州の生育条件は他の地域ほど良好ではなく、5月初めの時点で南オーストラリア州の大部分の生産地域で作付けの遅れが生じた。5月中の冷涼な気温及び十分な降水量のおかげでヴィクトリア州、南オーストラリア州及び西オーストラリア州では、当初の生産者の強い作付け意向を現実のものとする事ができた。

一方で、クイーンズランド州及びニューサウスウェールズ州の多くの生産地域では、5月の豪雨により圃場が水浸しになり、作付けが進まない状態となっている地域がある。これにより、冬作年度の始めの時点で圃場への立ち入りが制限され、6月においても湿潤な条件が続いた場合には計画通りの作付けができなくなる恐れがある。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

| 作物名          | 作付面積(1,000ha) |           |           | 生産量(1,000t) |           |           |
|--------------|---------------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|
|              | 2020-21       | 2021-22 s | 2022-23 f | 2020-21     | 2021-22 s | 2022-23 f |
| ヒヨコマメ        | 507.5         | 615.8     | 442.5     | 732.5       | 1062.3    | 605.5     |
| ファバビーン(ソラマメ) | 269           | 257.5     | 241.5     | 509.8       | 582.5     | 425.4     |
| フィールドピー      | 209           | 192       | 205       | 293.5       | 261.1     | 238.3     |
| レンズマメ        | 451.3         | 495.3     | 546       | 782.1       | 839.5     | 788.3     |
| ルーピン         | 496.3         | 497.1     | 425       | 782.1       | 839.5     | 788.3     |

f：ABARESによる予測。

s：ABARESによる推定。

注：作物年度は、4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるのかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。

典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表4 オーストラリアの州別生産量

| 冬作物名                         | ニューサウスウェールズ州      |                 | ヴィクトリア州           |                 | クィーンズランド州         |                 | 南オーストラリア州         |                 | 西オーストラリア州         |                 | タスマニア州            |                 |
|------------------------------|-------------------|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|-----------------|
|                              | 作付面積<br>(1,000ha) | 生産量<br>(1,000t) | 作付面積<br>(1,000ha) | 生産量<br>(1,000t) | 作付面積<br>(1,000ha) | 生産量<br>(1,000t) | 作付面積<br>(1,000ha) | 生産量<br>(1,000t) | 作付面積<br>(1,000ha) | 生産量<br>(1,000t) | 作付面積<br>(1,000ha) | 生産量<br>(1,000t) |
| ヒヨコマメ                        |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |
| 2020-21                      | 220               | 374             | 45                | 67.5            | 230               | 275             | 8                 | 11              | 4.5               | 5               | 0                 | 0               |
| 2021-22 s                    | 280               | 504             | 30                | 40              | 293.3             | 500.8           | 8                 | 11              | 4.5               | 6.5             | 0                 | 0               |
| 2022-23 f                    | 220               | 308             | 25                | 25              | 185               | 259             | 8                 | 8.8             | 4.5               | 4.7             | 0                 | 0               |
| 2021/22作物<br>年度までの<br>5年間の平均 | 215               | 266.3           | 44.6              | 47.2            | 273.2             | 304.5           | 19.6              | 21              | 7.9               | 7.7             | 0                 | 0               |
| フィールドビー                      |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |
| 2020-21                      | 34                | 61              | 55                | 82.5            | 0                 | 0               | 85                | 105             | 35                | 45              | 0                 | 0               |
| 2021-22 s                    | 37                | 45.1            | 40                | 71              | 0                 | 0               | 80                | 85              | 35                | 60              | 0                 | 0               |
| 2022-23 f                    | 45                | 47.3            | 40                | 50.3            | 0                 | 0               | 85                | 97.8            | 35                | 43              | 0                 | 0               |
| 2021/22作物<br>年度までの<br>5年間の平均 | 43.7              | 37.8            | 66.2              | 69.2            | 0                 | 0               | 89.3              | 94              | 34.7              | 47.4            | 0                 | 0               |
| レンズマメ                        |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |
| 2020-21                      | 10                | 14              | 210.2             | 350             | 0.1               | 0.1             | 220               | 400             | 11                | 18              | 0                 | 0               |
| 2021-22 s                    | 12                | 16.2            | 210.2             | 340             | 1.2               | 1.3             | 260               | 460             | 12                | 22              | 0                 | 0               |
| 2022-23 f                    | 15                | 15.8            | 230               | 276             | 0                 | 0               | 290               | 478.5           | 11                | 18              | 0                 | 0               |
| 2021/22作物<br>年度までの<br>5年間の平均 | 7.4               | 7.5             | 212.7             | 269.6           | 0.3               | 0.4             | 201.6             | 316.1           | 13.4              | 16.3            | 0                 | 0               |
| ルーピン                         |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |                   |                 |
| 2020-21                      | 68                | 130             | 38                | 43.7            | 0.1               | 0.1             | 40                | 50              | 350               | 550             | 0.2               | 0.5             |
| 2021-22 s                    | 68                | 122.4           | 38                | 39              | 1.1               | 1.1             | 40                | 45              | 350               | 750             | 0                 | 0               |
| 2022-23 f                    | 50                | 70              | 40                | 40              | 0                 | 0               | 35                | 38.5            | 300               | 470             | 0                 | 0               |
| 2021/22作物<br>年度までの<br>5年間の平均 | 66.5              | 69.2            | 43.5              | 39.7            | 0.2               | 0.3             | 46.6              | 51.2            | 429.1             | 606             | 0.2               | 0.8             |

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表5 オーストラリアの豆類供給量及び利用状況

| 作物名          | 2015-16  | 2016-17  | 2017-18  | 2018-19  | 2019-20  | 2020-21  |
|--------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
|              | (1,000t) | (1,000t) | (1,000t) | (1,000t) | (1,000t) | (1,000t) |
| 生産量          |          |          |          |          |          |          |
| ルーピン         | 652      | 1031     | 714      | 799      | 591      | 774      |
| フィールドビー      | 205      | 415      | 317      | 160      | 210      | 294      |
| ヒヨコマメ        | 875      | 2004     | 998      | 205      | 235      | 733      |
| 見かけ上の国内利用量 a |          |          |          |          |          |          |
| ルーピン         | 398      | 637      | 258      | 526      | 376      | 315      |
| フィールドビー      | 76       | 156      | 189      | 87       | 165      | 169      |
| ヒヨコマメ        | 1        | 1        | 1        | 1        | 1        | 1        |
| 輸出量          |          |          |          |          |          |          |
| ルーピン         | 254      | 395      | 456      | 273      | 215      | 459      |
| フィールドビー      | 130      | 261      | 130      | 75       | 48       | 126      |
| ヒヨコマメ        | 1145     | 2293     | 724      | 371      | 349      | 879      |

a: 生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。  
注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は11月から10月までである。市場年度に基づく輸出量のデータが、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量の数値と一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。ABSの農業データ収集方針の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の規模の生産主体(EVAO)による生産量となっていたが、2015/16年度以降は、推定生産額40,000ドル以上の規模のVAOによる生産量となっている。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia